

E-Oral Presentation | 画像診断/成人先天性心疾患

E-Oral Presentation 2 (I-EOP02)

Chair: Mitsugi Nagashima (Tokyo Women's Medical University Department of Cardiovascular Surgery)
Fri. Jul 7, 2017 6:00 PM - 7:00 PM E-Oral Presentation Area (Exhibition and Event Hall)

6:00 PM - 7:00 PM

[I-EOP02-04]メタ解析による PAPVC の診断について

○岩島 覚¹, 石川 貴充², 關 圭吾², 上田 憲³, 佐藤 慶介⁴, 田中 靖彦⁴ (1.中東遠総合医療センター小児循環器科, 2.浜松医科大学小児科学教室, 3.静岡県医師会学校保健対策委員会学校心臓検診結果検討小委員会, 4.静岡県立こども病院循環器科)

Keywords: PAPVC, MDCT, Diagnosis

【はじめに】 PAPVCの発症頻度は解剖学的検討では0.4-0.7%と報告されている。近年、MDCTやMRIなどの画像診断技術が向上し PAPVCの診断率も向上しているがこれらの Modalityが screeningとして有用かどうか不明である。【目的】 PAPVCの頻度について様々な Databaseを用いメタ解析を用い推定する。【対象、方法】統計分析の対象として、浜松医科大学小児科、および関連病院における心カテデータ症例、静岡県立こども病院循環器科心カテデータ症例、平成19~24年静岡県学校心臓病検診例、その他 Pub Med、EMBASE、Cochrane library、Scopus、Google Scholarの電子 Databaseを検索し PAPVCの頻度に関する4研究を特定した。これら対象と解剖学的検討による頻度5/801(0.6%)とについて比率と比較のメタ解析を行った。統計解析は統計ソフト Rを用い P値0.05以下を有意差ありとした。【結果】対象計55,655例中 PAPVC 163例を抽出した。今回検討した PAPVCの頻度は解剖学的頻度と比較し Odds ratio (OR)=1.37 (95%CI: 0.93-2.03)と高かったが有意差を認めなかった。しかし不均一の指標である Heterogeneity: Isquared=81.2%, P<0.0001と Database別による差を認めた。この不均一差の原因として対象年齢における検討では有意な差を認めなかったが、Modality別による検討では心カテ診断による頻度 OR=2.06 (95%CI: 1.13-3.76)、MDCTによる診断による頻度 OR=0.24 (95%CI: 0.10-0.55)と MDCTによる診断頻度は有意に低く(P<0.0001)と明らかな Modalityによる頻度の差を認めた。【まとめ】 PAPVCの頻度は従来報告されている解剖学的頻度より高いが MDCTによる screeningはまだ十分でない可能性がある。